

SILVERSEA EXPEDITIONS

Prince Albert II

ラグジュアリークルーズ界のイノベーター、シルバーシー・クルーズの新機軸

脚光を浴びる、 プリンス・アルベールIIの 探検クルーズ

きめの細かいホスピタリティをめざし、こだわりの豪華小型客船でラグジュアリークルーズを展開しているシルバーシー・クルーズ。その顧客満足度の高さは、2008ラグジュアリーブランド・ステイタスインデックス(LBSI)において、「ナンバーワン・ラグジュアリー・クルーズライン」の評価を得たことからもうかがえる。

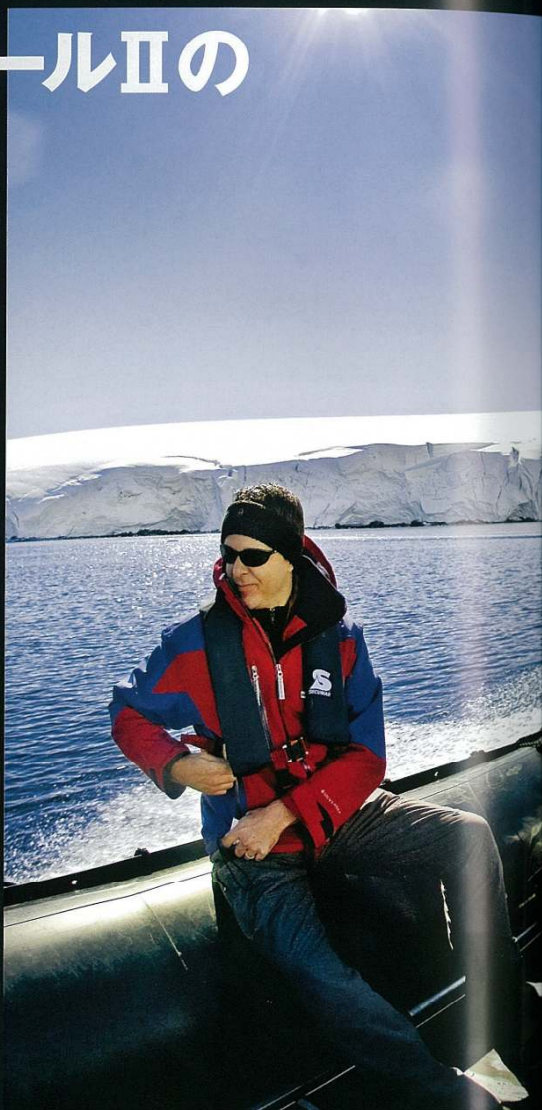
そのなかにおいて、同社は一昨年から探検船(プリンス・アルベールII)の運航を開始。南極圏、北極圏を含むさまざまな探検クルーズを開拓して注目を集めたことから、今年8月には同船のプログラムディレクター、コンラッド・コンプリング氏が来日して、探検ツアーのセミナーを開催した。

「南北両極地はもとより、2011年以降はアフリカ各地の探検ツアーも考えています」と意欲を示した同氏。ラグジュアリーな設備を整えながら、頑丈な船体で世界のあらゆる場所にアプローチできる(プリンス・アルベールII)のクルーズの魅力に迫ってみた。

文=市川和彦 写真=シルバーシー・クルーズ

text by Kazuhiko Ichikawa, photos by Silversea Cruise

右(プリンス・アルベールII)号の航海では、ハードボトム・インフレーターを駆使して自然に直接触れ合うプログラムが数多く用意されている
下(一昨年に就航した探検船(プリンス・アルベールII)。厚さ1mの氷を砕きながら航海する能力を備えており、南北両極圏の旅も安心して楽しめる



また、11月から来年の2月まではドレーク海峡と南極半島を巡る旅が待っており、ゲストたちは同号のエクスペディションチームと共に、インフレーターに乗ってペンギンの群生地などを目指す予定を立てている。

このように、一般的な客船クルーズでは味わえない独特のディステーションによって、〈プリンス・アルベールII〉号は一躍、世界の脚光を浴びており、昨年のクルーズは完売を記録。来年の予定も続々と埋まっており、アフリカ沿岸のクルーズも計画している。

旅のハプニングを楽しもう

〈プリンス・アルベールII〉号が大きな人気を集めたことから、今年8月には同号のプログラムディレクター、コンラッド・コンプリング氏が来日し、東京で探検ツアーのセミナーを開催。多くのツアービジネス関係者ならびにマスコミ関係者を集めて、〈プリンス・アルベールII〉号が展開するクルーズの魅力を細かく解説した。

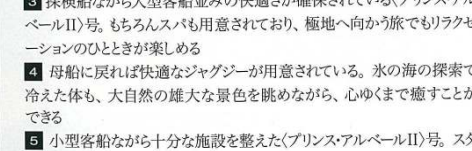
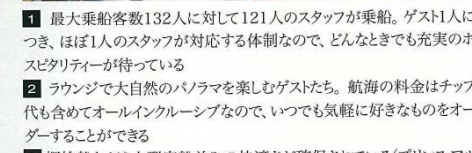
コンプリング氏は、極地を含む世界のあらゆる辺境地を旅した探検家であるとともに、観光経営学の学位を持つツアーディレクターでもあり、10年以上にわたって探検クルーズのプログラム作成を経験。〈プリンス・アルベールII〉号が就航してからは、同号のエクスペディション・ディレクターとして探検クルーズを指揮している。

「〈プリンス・アルベールII〉の探検クルーズには世界でも珍しいディステーションが用意されています。ですから、夜間航行中に美しいオーロラが出たら、ためらわずにゲストを起こして観察するなど、そのときの自然の状況やゲストの好奇心によって旅の予定も変えていきます。それが、このクルーズの醍醐味でもあるわけですね」とコンプリング氏。同号にはハードボトムのインフレーターが8艇搭載されており、客船ではアプローチできない沿岸域や河川の上流などにも積極的にアプローチする。

「寄港地に到着したら、毎日のようにインフレーターボートを行って、直接その地域の自然に触れてもらいます。パナマに行ったときは、川の上流を10キロほど上って原住民と交流しました」

コンプリング氏が率いる11人のエクスペディションチームのうち、7人がナチュラリストなので、ゲストも安心して自然の旅を楽しめる。東京で開催されたセミナーでは、船旅そのものの快適さを尋ねる声も上がったが、65室のスイトからなる探検船とは思えない豪華な客室の紹介や、乗客定員132人に対して121人のスタッフが乗船するという徹底したホスピタリティーの説明を受けて誰もが納得した表情を見せていた。

本誌が発行される頃には、南極の海をめぐっている〈プリンス・アルベールII〉号の旅。風光明媚な観光地の旅や名所旧跡を巡る旅も楽しいが、辺境の地を旅した経験は決して忘れることのできない強烈な思い出として残ることだろう。



- 1 最大乗客数132人に対して121人のスタッフが乗船。ゲスト1人につき、ほぼ1人のスタッフが対応する体制なので、どんなときでも充実のホスピタリティーが待っている
- 2 ラウンジで大自然のパノラマを楽しむゲストたち。航海の料金はチップ代も含めてオールインクルーシブなので、いつでも気軽に好きなものをオーダーすることができる
- 3 探検船ながら大型客船並みの快適さが確保されている〈プリンス・アルベールII〉号。もちろんスパも用意されており、極地へ向かう旅でもリラクゼーションのひとつが楽しめる
- 4 母船に戻れば快適なジャグジーが用意されている。氷の海の探検で冷えた体も、大自然の雄大な景色を眺めながら、心ゆくまで癒すことができる
- 5 小型客船ながら十分な施設を整えた〈プリンス・アルベールII〉号。スタンダードのツインルームに加え、写真のオーナーズスイートをはじめとする8クラス65のスイトルームが用意されている



今年8月には〈プリンス・アルベールII〉号のプログラムディレクター、コンラッド・コンプリング氏が来日。東京でセミナーを開催し、同号の魅力を詳細に説明した

photo by Sea Dream

問い合わせ: インターナショナル・クルーズ・マーケティング(株)
TEL: 03-5405-9213 <http://www.silversea.jp/>



氷の海で手にするシャンパンは格別だ。〈プリンス・アルベールII〉号には7人のナチュラリストが在籍しており、専門知識を駆使しながらあらゆるガイドをこなしてくれる

注目のディステーション

シルバーシー・クルーズといえば、小型客船を使って大型客船同様の快適さを提供する、世界トップレベルのラグジュアリークルーズ・カンパニーとして知られ、昨年も排水量3万6,000トンの新造船〈シルバー・スピリット〉を就航させて話題を集めたばかりである。

同社が小型客船にこだわるには、それなりの理由がある。第一に、大型客船にはない機動力でディステーションの幅が広がるのが挙げられよう。また、限定された数のゲストに対して、きめの細かいホスピタリティーを提供してくれる点も見逃せない。シルバーシー・クルーズはリピーターが多いことで知られており、どこかで一緒に船旅を楽しんだゲストと再会することもままあるが、こんなサプライズも小型客船ならではの楽しみだといえるだろう。

こうしたことから、同社のクルーズはツアービジネスの世界で高い評価を受けており、冒頭で紹介した2008ラグジュアリーブランド・ステイタスインデックス(LBSI)において、「ナンバーワン・ラグジュアリー・クルーズライン」に輝くほか、アメリカンアカデミー・オブ・ホスピタリティー・サイエンス2009では「ファイブスター・ダイヤモンド・アワード」を獲得。このほかにも、数々の国際的な賞を受賞し続けている。

また、近年のエコブームを反映して大きな注目を集めているのが、一昨年に就航した〈プリンス・アルベールII〉号の探検クルーズである。同号は、厚さ1メートルの氷も難なく砕いて進む屈強な探検船でありながら、シルバーシー・クルーズらしい豪華な設備を

整えているため、誰もが快適に探検の旅を満喫できる。

もちろん、ディステーションは人があまり足を踏み入れない辺境の地が中心で、当然のことながら北極圏や南極海なども含まれる。

ちなみに、同号による最近の足跡をたどってみると、今年6月から9月にかけての夏場には、スヴァールバル諸島、アイスランド、グリーンランドを経てカナダの北極圏に到達。この間、壮大なフィヨルドや氷山の海を航海しながら、アザラシやトナカイ、ホッキョクグマといった野性動物との出会いも体験した。

海に降りて探検に繰り出すゲストたち。〈プリンス・アルベールII〉号にはハードボトムのインフレーターが8艇搭載されており、一度に90人のゲストを乗せることができる

